

これからどんなことができるか、 したいか、できそうか —催眠へのおもい(重い・思い・想い)—

長谷川明弘
(金沢工業大学)

催眠医学心理学会第49回大会
前夜祭(若手研究者の会) 話題提供 「私と催眠」
平成15年9月19日 九州大学

はじめに

- ・ 催眠にふれて10年程経過
- ・ この機会に、これまでを振り返ることで今後、進んでいく方向がみえるかもしれないし、かえって、ますますわからなくなるかもしれない。
- ・ 会場のみなさんからのご助言を頂きながら意見交換したいです。

興味・関心があること、質問など話題提供

1. 催眠を様々な人に適用して心理療法の実践の幅を拡げること
2. 実験催眠に取り組んでみたい。そこで関連する文献を読み始めました。

今はどのように進めるのか想像が付きません。
※参考文献などお勧めは何でしょうか。

今回の内容

- ・ 第1期—出会い—
- ・ 第2期—加速—
- ・ 第3期—展開—
- ・ 第4期—深化?—
- ・ 第5期—新たな展開—
- ・ 第6期—期待?—
- ・ 併設の研究所でできること—多種類の研究機器—
- ・ 実験研究の可能性

第1期 —出会い—

- ・ 1991年4月、心理学科に入学。
- ・ 先輩についていくとある光景が目の前に。
「何かしているけど何だろう? 静かだなあ」
- ・ 最初に催眠を指導してくれた人「これ催眠というんだけど・ここは卒論で実験をするのに学びたいというので(学生に)教えているんだけど・あれっ、初めて催眠をみたの、よければ毎週こういったことやるから(習いに/みに)きてみる?」。

第2期 —加速—

- ・ 1992年1月、家族療法と催眠に関するワークショップ後の懇親会で講師と話したとき
- ・ 「それは伝統的で今まで通りのやり方だよ。それ以外にも他のやり方があるけど、いつかその研修会やるから来てみる?」

第3期 — 展開 —

- ・ 1998年秋、地域の心理士より問い合わせ「助産婦が無痛分娩を学び、母親教室で教えたいといっているけど、たしか催眠していたよね。催眠でそんなことできるんじゃないか」
- ・ 「催眠誘導の仕方なら…入り口は伝えられるけど、その続きは一緒に考えていくしかないけど、それで良いのなら…後は他の研修会に出てもらって学んでいったり、自分で工夫していくことになるよ。正直なところ、経験があまりないもので…」

第4期 — 深化? —

- ・ 2000年5月、臨床催眠スクールの後の懇親会で知り合った開業予定の心療内科医院長「あなたは何ができる?」。
- ・ 2002年春、産業臨床領域で心理士の同僚「この前、催眠を希望する人がいたので、予約を入れておきました」。

第5期 — 新たな展開 —

- ・ 2003年4月、脳磁計や光トポグラフィといった脳計測機器も備わり、研究面も充実した環境で仕事を始めた
- ・ 臨床面は学生相談室で仕事を開始、さらに地域に開かれた相談室も始動する
- ・ 今回の大会で、話題提供と事例発表

第6期 — 期待? —

- ・ 20XX年X月X日
新しい研究や事例が一段落、学会で報告しているかも????

大学併設の研究所でできること — 多種類の測定機器 —

- ・ 脳磁計(MEG)と永久磁石型磁気共鳴画像診断装置(MRI)のデータを重ね合わせて刺激に反応した脳神経の位置がわかるように処理をすること
- ・ 光トポグラフィとモーションキャプチャーを合わせてデータ処理も可能
- ・ 工業大学の特長を生かしたい

脳磁計 (MEG: Magnetoencephalography)

- ・ 1970年代後半に開発され、国内では数十台の機器がある
- ・ 神経や筋肉が活動した際に発生する電流から生まれた微弱な磁場を測定
- ・ 細胞間の電流を測定し、磁界成分の時間的、空間的分布データによって解析。電気活動の位置を2mmの精度で測定し、1/1000秒毎の変化を示すこと可能
- ・ 被験者の負担が少ない



永久磁石型磁気共鳴画像診断装置 (MRI: Magnetic Resonance Imaging)

- 原子核の磁気共鳴を利用し、人体の断層撮影を行う装置
- 脳磁計(MEG)で推定された神経活動源の位置情報を併用することにより、脳の形状的なマッピングと、機能的なマッピングを重ねあわせることが可能



光トポグラフィ (Optical Topography)

- 1995年に開発
- 微弱な赤外線を頭部に照射し、大脳皮質の活動状態について、その血液量の変化を計測して画像化する技術
- 1/10秒毎の変化を示すこと可能
- 被験者の負担が少ない
- 長時間計測可能



日立製作所のホームページより

モーションキャプチャー (Motion Capture)

- 身体に装着したセンサーで人間の動作(motion)を記録し、コンピュータに取り込み(capture)、実際の動きをイラストやアニメーションで表現できるようにする技術



実験研究の可能性

- 言葉による暗示、動作を用いた誘導のプロセスで脳に何が生じているのかを検証すること
e.g.「腕を動かして」といわれて
 - 1)実際に動かす場合
 - 2)動かしているイメージをしている場合
 - 3)催眠時に「動かさない」と暗示された場合
→脳の活動はどのように違うのか
- 視覚、聴覚、体感覚の各イメージと脳活動の関係
- 課題: 先行研究を踏まえた実験デザインを考案し、機器の操作に習熟し、協力体制を構築

おわりに

- この春から所属が変わり、研究ならびに臨床にかんする環境が整いました
- しかし、まだまだ課題が山積み
- 臨床面でも、これから様々なケースに対処してゆきたい
- このような環境を生かせるように知識を深め、腕を磨いてゆきたい
- ご静聴ありがとうございました

これからどんなことができるか、したいか、できそうか －催眠へのおもい(重い・思い・想い)－

長谷川明弘(金沢工業大学)

催眠にふれて 10 年程過ぎました。この機会に、これまでを振り返ることで今後、進んでいく方向がみえるかもしれないし、かえって、ますますわからなくなるかもしれません。当日はこのような事を取り上げて、どのようなことが今後できそうか、どんなことしたいかをお話ししたいと考えております。みなさんからのご助言をきっかけにいろいろと拓げてゆきたいです。

第 1 期(出会い)：1991 年 4 月、心理学科に入学したものの専門科目の授業がまだまだ少なく、つまらない時間を過ごしていた頃。学生が集まる部屋にふらっと立ち寄った先輩についていくとある光景が目の前に。最初に催眠を教えてもらった人が「これ催眠というんだけど・ここは卒論で実験をするのに学びたいというので(学生に)教えているんだけど・・あれっ、初めて催眠をみたの、よければ毎週こういったことやるから(習いに/みに)きてみる？」。

第 2 期(加速と急展開)：1992 年 1 月、家族療法に関するワークショップ後の懇親会で講師から「それは古い今まで通りのやり方だよ。それ以外にも他のやり方があるけど、いつかその研修会やるから来てみる？」

第 3 期(広がり)：1998 年秋、地域の心理士より問い合わせ「助産婦が無痛分娩を学び、母親教室で教えたいといっているけど、たしか催眠していたよね」「まずは一緒に考えていくしかできないけど、それで良いのなら・・・催眠誘導の仕方なら・・・その入り口は伝えられるけど、後は他の研修会に出てもらって学んでいったり、自分で工夫していくことになるよ」。

第 4 期(深まり??)：2000 年 5 月、心療内科医院長「あなたは何ができる？」。2002 年春、産業臨床領域心理士の同僚「この前、催眠を希望する人がいたので、予約を入れておきました」。

第 5 期(新たな展開)：2003 年 4 月、脳磁計や光トポグラフィといった脳計測機器も備わり、研究面も充実した環境で仕事を始めました。臨床面は学生相談室で仕事を開始、さらに地域に開かれた相談室が 9 月から本格的に始動。

第 6 期(?)：20**年*月、新しいことが始められているのかも

◎興味・関心があること、質問など話題提供

- a) 催眠を様々な人に適用して心理療法の実践の幅を拓げること
- b) 実験催眠に取り組んでみたい。今はどのように進めるのか想像が付きません。

※参考文献などお勧めは何でしょうか。

上記内容について話題提供し、会場のみなさんからのご助言を頂きながら意見交換したいです。